

5. 総括

1 指標の評価結果

基本目標ごとの指標の評価結果は、以下のとおりです。

また、さいたま市総合振興計画で「成果指標」や「事業としての目標指標」に設定されている指標については、さいたま市総合振興計画における評価についても参考として示しています。

(1) 基本目標 1 地球温暖化の問題に地域から行動し、脱炭素社会を実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向※1
市民1人当たりの温室効果ガス排出量		15	○	△	△
市域の再生可能エネルギーなどの導入量		15	○	○	△
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度※2
1-1 省エネルギー化の推進	家庭部門における温室効果ガス排出量 (市民)	15	○	○	B
	産業部門・業務部門における温室効果 ガス排出量(事業者・行政)	15	○	△	B
	市役所の事務事業における温室効果ガ ス排出量(行政)	15	○	△	B
	市内の乗用車の新車登録台数に占める 次世代自動車の割合	15	○	△	B
1-2 持続可能なエネルギー 政策の推進	太陽光発電設備等を導入した施設(公 民館)	16	○	○	B
	公共施設への再生可能エネルギー等の 導入(電力の地産地消)	16	-	○	B
	再生可能エネルギー等の導入施設数	16	-	-	-
1-3 環境未来都市の実現	「生活支援サービス」の実装数	16	○	△	B
1-4 気候変動への適応	適応策に資する事業数	16	○	○	

対前年度比の評価

- ：前年度より良化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。
- ×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。 -：評価なし

対年度目標値比の評価

- ：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。
- ×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。 -：評価なし

参考※1 さいたま市総合振興計画における成果指標の動向

- △：基準値に対して向上 □…基準値に対して横ばい(変動率±0.5%の範囲内) ▼…基準値に対して低下
- /：さいたま市総合振興計画において設定なし

参考※2 さいたま市総合振興計画における事業としての目標指標の達成度

- A：目標を上回って達成(達成率：110%以上) B：目標をおおむね達成(達成率：90%以上110%未満)
- C：目標を未達成(達成率：90%未満) /：さいたま市総合振興計画において設定なし
- ：最新年度の数値なし

(2) 基本目標2 とともに取り組み参加する、循環型都市を創造する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向※1
市民1人1日当たりのごみの総排出量		52	○	○	△
ごみの総排出量に対する最終処分比率		52	×	△	▼
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度※2
2-1 3Rの推進による廃棄物の減量	市民1人1日当たりの家庭系ごみの総排出量	52	○	△	B
	事業系一般廃棄物排出事業者への啓発・指導件数	52	○	○	A
2-2 廃棄物の循環利用と適正処理の推進	焼却灰及び飛灰の資源化率	52	△	○	A
	不法投棄情報通報協定件数	52	○	○	A

(3) 基本目標3 自然と共生し、多様ないのちが息づくまちを実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向※1
水辺や緑地の保全・再生活動に関心がある市民の割合		80	△	△	▼
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度※2
3-1 生物多様性の保全と再生	自然観察・環境学習会に参加して生物多様性について理解した参加者の割合	80	○	○	A
3-2 緑の保全と創出	オープン型緑地の整備率	80	○	○	A
3-3 水環境の保全と活用の推進	水辺のサポート制度登録団体数	80	○	△	B

対前年度比の評価

- ：前年度より良化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。
- ×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。 -：評価なし

対年度目標値比の評価

- ：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。
- ×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。 -：評価なし

参考※1 さいたま市総合振興計画における成果指標の動向

- △：基準値に対して向上 □…基準値に対して横ばい（変動率±0.5%の範囲内） ▼…基準値に対して低下
- ／：さいたま市総合振興計画において設定なし

参考※2 さいたま市総合振興計画における事業としての目標指標の達成度

- A：目標を上回って達成（達成率：110%以上） B：目標をおおむね達成（達成率：90%以上110%未満）
- C：目標を未達成（達成率：90%未満） ／：さいたま市総合振興計画において設定なし
- ：最新年度の数値なし

(4) 基本目標4 安全で誰もが暮らしやすい生活環境を実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向※1
生活環境(空気・水のきれいさ、静けさ、悪臭)に満足している市民の割合		106	-	△	/
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度※2
4-1 大気質の保全・交通環境対策	大気汚染物質の環境基準達成率	106	○	○	/
4-2 水質の保全	水質汚濁に関わる環境基準達成率 (公共用水域の測定計画地点7地点)	106	○	△	/
4-3 景観の保全	景観重要建造物・樹木の指定件数	106	○	○	A

(5) 基本目標5 すべての主体が手を取り合い、環境の保全と創造に意欲的に取り組むまちを実現する

成果指標		頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 指標動向※1
環境に配慮した行動を実施している市民の割合		125	○	○	□
施策の柱	目標指標	頁	対前年度比	対年度 目標値比	(参考) 達成度※2
5-1 環境教育・環境学習の推進	子どもエコ検定に取り組んだことで環境について児童が興味を持った学校の割合	125	○	○	B
	市と連携して環境教育・学習の推進に取り組む民間事業者等の団体数	125	△	△	A
5-2 環境保全活動の促進	環境イベントの参加者数合計	125	○	○	A
	SDGs企業認証数	125	○	○	A
	環境美化活動(市民清掃活動)の参加者数	125	○	○	B

対前年度比の評価

○：前年度より良化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。

×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。 -：評価なし

対年度目標値比の評価

○：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。

×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。 -：評価なし

参考※1 さいたま市総合振興計画における成果指標の動向

△：基準値に対して向上 □…基準値に対して横ばい(変動率±0.5%の範囲内) ▼…基準値に対して低下

/：さいたま市総合振興計画において設定なし

参考※2 さいたま市総合振興計画における事業としての目標指標の達成度

A：目標を上回って達成(達成率：110%以上) B：目標をおおむね達成(達成率：90%以上110%未満)

C：目標を未達成(達成率：90%未満) /：さいたま市総合振興計画において設定なし

-：最新年度の数値なし

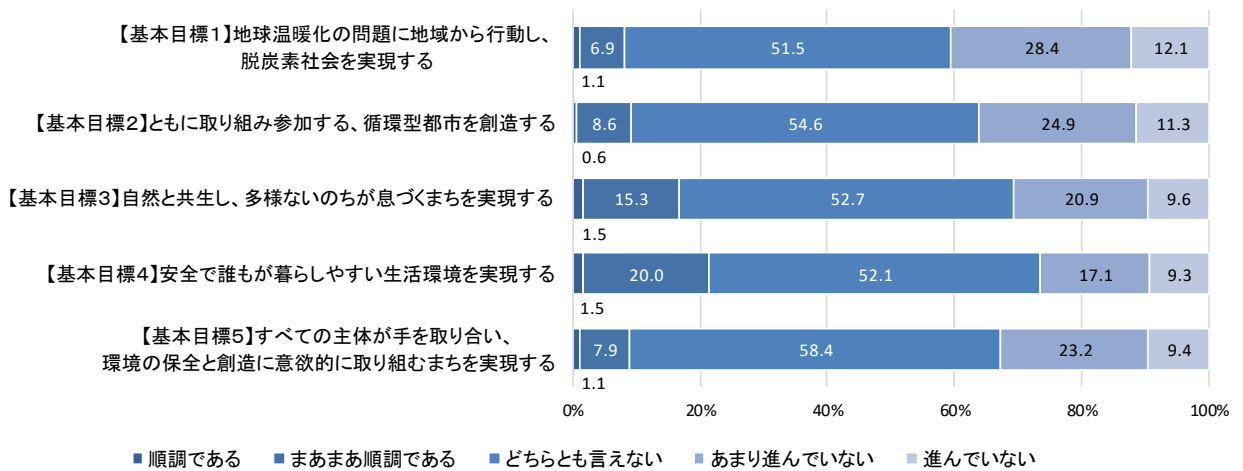
2 市民アンケート結果

本市では、第2次さいたま市環境基本計画の基本目標の実現状況について、指標及び数値目標による定量的評価と市民の意識調査による定性的評価を行うこととしています。そこで市民の環境施策に対する評価や関心の状況等を調査するため、平成23年（2011年）から毎年、環境に関するWEBアンケートを、市民1,000人を対象に実施しています。

以下は、アンケート結果を示したものです。なお、アンケート対象者の居住区の割合は、市の実態に即しています。

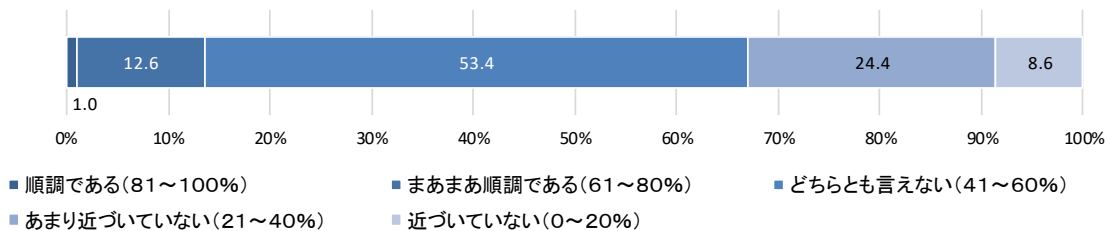
Q1. 基本目標1から5の進捗状況について

基本目標1から5のうち、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が最も高いのは基本目標4で21.5%、最も低いのは基本目標1で8.0%となりました。



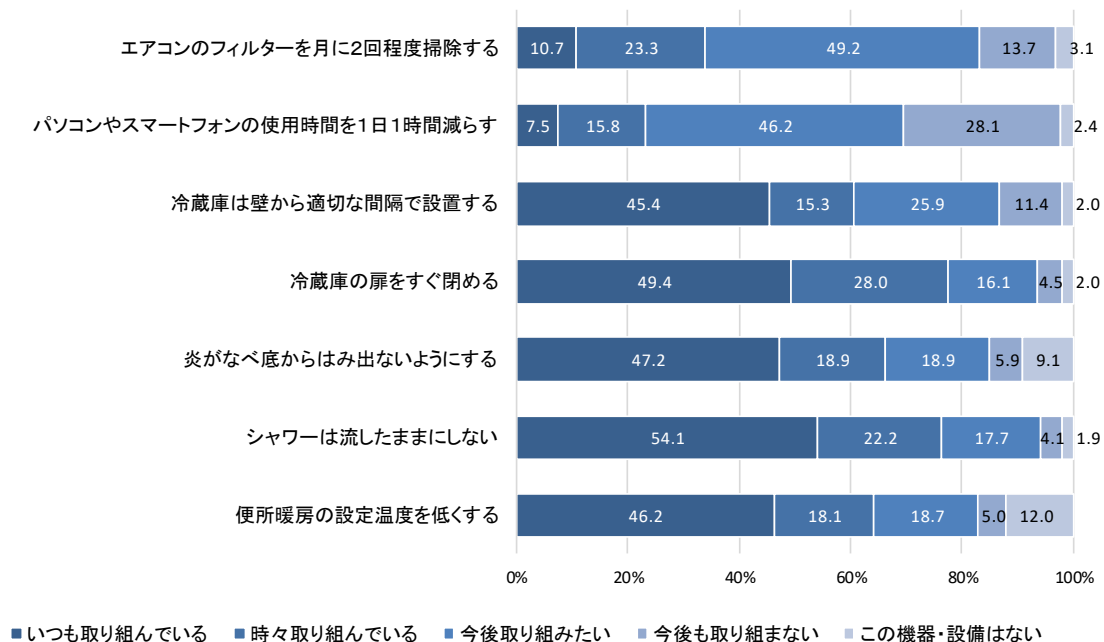
Q2. 本市が目指す「望ましい環境像」の実現について

「望ましい環境像」について、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が13.6%であるのに対し、「あまり近づいていない」と「近づいていない」を合計した割合は33.0%となりました。



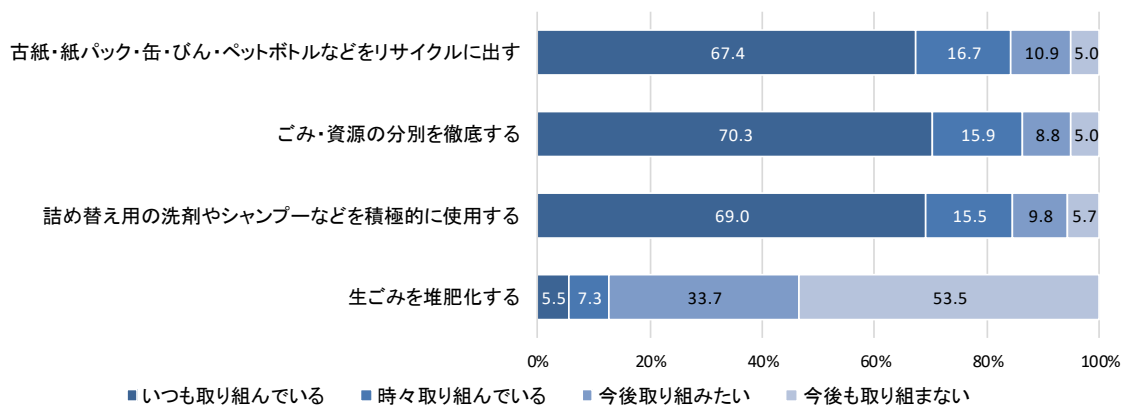
Q3. 家庭でできる地球温暖化対策について、日頃行っている取組

家庭でできる地球温暖化対策について、「いつも取り組んでいる」と「時々取り組んでいる」を合計した割合が最も高いのは「冷蔵庫の扉をすぐ閉める」で77.4%、最も低いのは「パソコンやスマートフォンの使用時間を1日1時間減らす」で23.3%となりました。



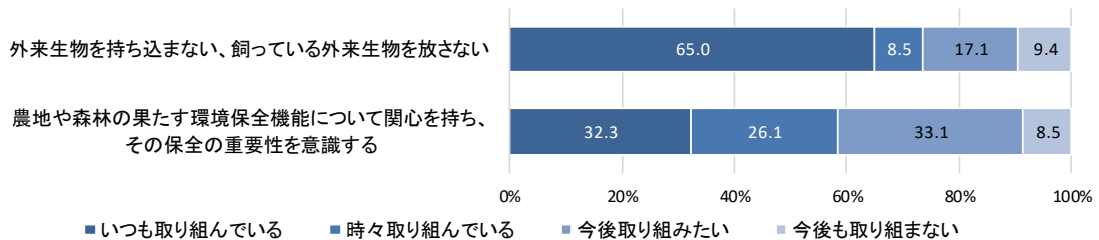
Q4. 循環型社会の構築について、日頃行っている取組

循環型社会の構築について、「いつも取り組んでいる」と「時々取り組んでいる」を合計した割合が最も高いのは「ごみ・資源の分別を徹底する」で86.2%、最も低いのは「生ごみを堆肥化する」で12.8%となりました。



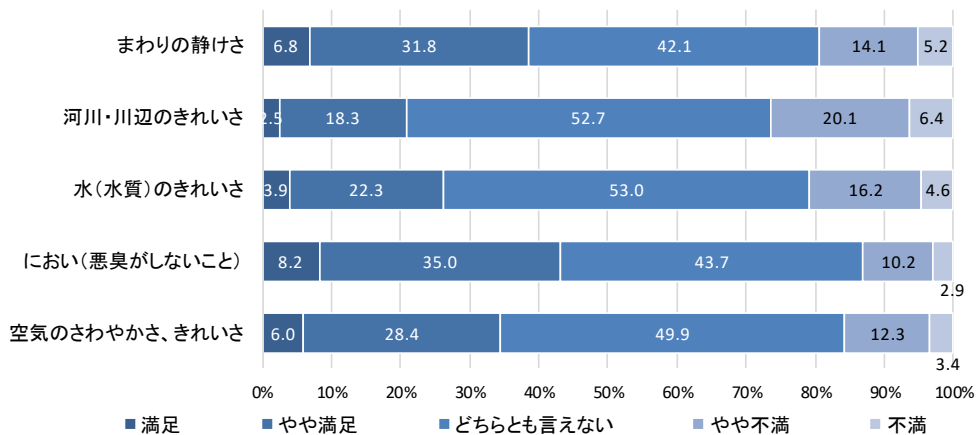
Q5. 質の高い自然環境の確保について、日頃行っている取組

質の高い自然環境の確保について、「いつも取り組んでいる」と「時々取り組んでいる」を合計した割合は「外来生物を持ち込まない、飼っている外来生物を放さない」が73.5%、「農地や森林の果たす環境保全機能について関心を持ち、その保全の重要性を意識する」が58.4%となりました。



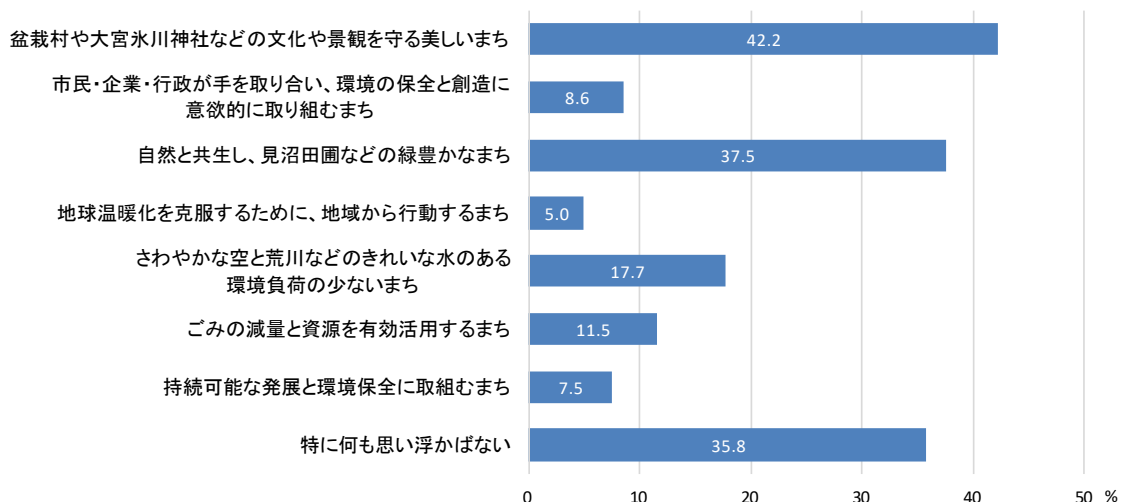
Q6. 本市の生活環境への満足度

本市の生活環境への満足度について、「満足」と「やや満足」を合計した割合が最も高いのは「におい(悪臭がしないこと)」で43.2%、最も低いのは「河川・川辺のきれいさ」で20.8%となりました。



Q7. 「さいたま市」の環境のイメージ(最大3つまで選択)

本市の環境のイメージについて、割合が最も高いのは「盆栽村や大宮氷川神社などの文化や景観を守る美しいまち」で42.2%となりました。



3 総合評価及び今後の取組

(1) 基本目標1 地球温暖化の問題に地域から行動し、脱炭素社会を実現する

基本目標1の指標の達成状況については、成果指標2個がともに前年度より向上し、1個が年度目標値を達成しました。また、目標指標9個のうち、7個が前年度より向上し、4個が年度目標値を達成しました。成果指標および目標指標の推移において、「○」または「△」の評価となった指標が大半であり、前年度よりも向上を図り、年度目標値の達成に向けて取組を推進した結果が反映されているものと考えられます。

一方で、市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が8.0%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は40.5%という評価となりました。

成果指標はともに順調に推移しており、「市域の再生可能エネルギーなどの導入量」については、令和7年度（2025年度）の中間目標を上回る結果を得ることができました。市有施設等への再生可能エネルギーの導入や市民等への再生可能エネルギーの導入促進等の取組が成果指標の向上に貢献しているものと考えられます。また、「市民1人当たりの温室効果ガス排出量」については、「さいたま市地球温暖化対策実行計画」に基づく各種事業の実施や市役所の事務事業における温室効果ガス削減への取組などが成果指標の向上に貢献しているものと考えられます。

目標達成に向けては、今後も、温室効果ガス排出量削減のための支援策を充実させ、市民や事業所と連携した省エネ化や再生可能エネルギーの導入を推進する必要があると考えます。

さらに、原油価格の高騰などエネルギー情勢は、社会情勢や地政学的リスクの影響を受けやすく、脱炭素社会に向け温暖化対策を推進する上で、こういった外的な要因による影響に左右されないように、国の動向、社会情勢の変化にも柔軟に対応できるよう備えておく必要があります。また、時代の変化とともに創出される技術革新にも注視し、事業に取り入れていく検討も必要となります。

成果指標の持続的な向上を目指すために、引き続き、各事業を推進するとともに、今後の情勢の変化に対応したエネルギー政策を講じながら、時代変化に見合った新たな技術等も事業に取り入れ、施策を推進していきます。

指標による評価結果（基本目標1）

	成果指標（個）			目標指標（個）			
	○	△	×	○	△	×	-
対前年度比	2	-	-	7	0	0	2
対年度目標値比	1	1	-	4	4	0	1

対前年度比の評価

- ：前年度より良化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。
- ×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。

対年度目標値比の評価

- ：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。
- ×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。

(2) 基本目標2 ともに取り組み参加する、循環型都市を創造する

基本目標2の指標の達成状況については、成果指標2個のうち、1個が前年度より向上し年度目標値を達成しました。また、目標指標4個のうち、3個が前年度より向上し、3個が年度目標値を達成しました。成果指標および目標指標の推移において、「○」または「△」の評価となった指標が大半であり、前年度よりも向上を図り、年度目標値の達成に向けて取組を推進した結果が反映されているものと考えられます。

一方で、市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が9.2%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は36.2%という評価となりました。

「市民1人当たりのごみの総排出量」は順調に減少していますが、これは新型コロナウイルス感染症の影響により、市民や事業者から排出されるごみが増加したことによるものと考えられます。家庭系ごみの更なる排出削減にあたっては、食品ロス削減や資源物の分別徹底などを促進するとともに、資源回収や再生利用に関する取組を継続的に進める必要があります。また、事業系ごみについても減量化・再資源化の促進や適正処理に関する啓発や指導を継続する必要があります。

「ごみの総排出量に対する最終処分比率」は、基準値を0.11%超える結果となりました。要因としては、西部環境センターの処理方式を令和3年度（2021年度）より一部変更したこと、焼却残渣の発生が当初の見込みと相違したこと並びに新型コロナウイルス感染症の影響により、建設資材等へ資源化した資材の需要が減少し、民間資源化施設への受入量についての制限が発生したためです。今後も、民間資源化施設において、受入量に上限が設けられ、成果指標が基準値を超えてしまう恐れがあることから、最終処分比率について、注視していく必要があります。

引き続き、プラスチック資源循環法の施行や新型コロナウイルス感染症の影響等、本市を取り巻く社会情勢の変化に対応しながら、食品ロス削減・プラスチックごみ削減等の取組を市民や事業者等と連携して推進するとともに、ごみ分別等における市民の更なる行動変容を促進していきます。

また、ごみを焼却処理する際に発生する熱エネルギーによる発電量の向上、焼却灰・溶融スラグなどの循環利用を推進するとともに、廃棄物処理施設の安定的な稼働を推進していきます。

指標による評価結果（基本目標2）

	成果指標（個）			目標指標（個）		
	○	△	×	○	△	×
対前年度比	1	-	1	3	1	-
対年度目標値比	1	1	-	3	1	-

対前年度比の評価

○：前年度より良化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。

×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。

対年度目標値比の評価

○：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。

×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。

(3) 基本目標3 自然と共生し、多様ないのちが息づくまちを実現する

基本目標3の指標の達成状況については、成果指標が、前年度より悪化し、年度目標値を達成できませんでした。また、目標指標3個のうち、3個が前年度より向上し、2個が年度目標値を達成しました。成果指標および目標指標の推移において、「○」または「△」の評価となった指標が大半であり、前年度よりも向上を図り、年度目標値の達成に向けて取組を推進した結果が反映されているものと考えられます。

市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が16.8%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は30.5%という評価となりました。

「水辺や緑地の保全・再生活動に関心がある市民の割合」は基準値を1.1%下回る結果となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言等の影響により様々な市民活動や市のイベント等が制限されたことも影響しているものと考えられます。今後も新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、感染防止対策を講じた魅力ある活動やイベント等の参加機会を提供することなどが求められます。

生物多様性の保全と再生に向けては、生物の生息空間となる重要な拠点の確保やエコロジカル・ネットワークの形成、外来生物対策などとともに、市民や事業者の生物多様性についての理解を促進することが必要です。

また、都市生活の環境緩和や快適性向上など、様々な機能を有する緑の確保や良好な水環境の保全を推進する必要があります。

引き続き、市内の魅力ある水辺や緑地を効果的にPRするとともに、市民参加型の体験活動などの情報をさらに周知することで、市民、事業者の身近な自然環境に対する意識向上を図りつつ、自然環境の保全と活用の取組を推進していきます。

指標による評価結果（基本目標3）

	成果指標（個）			目標指標（個）		
	○	△	×	○	△	×
対前年度比	-	1	-	3	0	0
対年度目標値比	-	1	-	2	1	0

対前年度比の評価

○：前年度より良好化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。

×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。

対年度目標値比の評価

○：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。

×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。

(4) 基本目標4 安全で誰もが暮らしやすい生活環境を実現する

基本目標4の指標の達成状況については、成果指標の年度目標値は達成できませんでした。また、目標指標3個はいずれも前年度より向上し、2個が年度目標値を達成しました。目標指標の推移においては、いずれも「○」または「△」の評価となっており、前年度よりも向上を図り、年度目標値の達成に向けて取組を推進した結果が反映されているものと考えられます。

市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が21.5%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は26.4%という評価となりました。

「生活環境（空気・水のきれいさ、静けさ、悪臭）に満足している市民の割合」は減少しており、生活環境全体の向上に取り組むことが求められています。

大気質の保全については、環境基準を概ね達成するなど、継続した取組が進められていますが、広域的な大気汚染対策等も引き続き進める必要があります。また、交通環境対策については、地球温暖化対策と連動させながら取組を推進することが重要です。

水質の保全については、日常生活や事業活動において河川等への汚濁負荷を軽減するための取組を継続して進める必要があります。

また、本市の良好な都市景観や歴史的・文化的環境を次の世代へ継承していくための保全・活用の取組を進めていく必要があります。

市民生活や事業活動の基盤となる安全・安心で快適な生活環境を確保するため、市民、事業者、行政の連携・協力のもと取組を推進していきます。

指標による評価結果（基本目標4）

	成果指標（個）				目標指標（個）		
	○	△	×	-	○	△	×
対前年度比	-	-	-	1	3	-	-
対年度目標値比	-	1	-	-	2	1	-

対前年度比の評価

- ：前年度より良化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。
- ×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。

対年度目標値比の評価

- ：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。
- ×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。

(5) 基本目標5 すべての主体が手を取り合い、環境の保全と創造に意欲的に取り組むまちを実現する

基本目標5の指標の達成状況については、成果指標が、前年度より向上し、年度目標値を達成しました。また、目標指標5個のうち、4個が前年度より向上し、4個が年度目標値を達成しました。成果指標および目標指標の推移において、「○」または「△」の評価となった指標が大半であり、前年度よりも向上を図り、年度目標値の達成に向けて取組を推進した結果が反映されているものと考えられます。

市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、「順調である」と「まあまあ順調である」を合計した割合が9.0%であるのに対し、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合計した割合は32.6%という評価となりました。

成果指標（環境に配慮した行動を実施している市民の割合）は高い割合で順調に推移しており、市民の環境への意識の高さや行動が進んでいることが表れています。これは、環境教育・環境学習の場・機会の充実のための各施策の推進や各主体間のネットワークを拡充するための取組が成果指標の向上に貢献していると考察されます。

市民一人ひとりの環境配慮に関する心がけや実践を更に促すためには、学校において将来を担う子どもたちへの環境教育を推進するとともに、幅広い世代が身近な場所で環境学習に取り組むことができる機会づくりを進めていく必要があります。

また、環境保全活動に関する取組がより大きな成果を得るために、市民や事業者等の環境保全活動に対して支援を行うとともに、異なる主体のパートナーシップや、環境活動のネットワーク化を支援することで、その輪を広げていくことが重要です。

あらゆる主体による環境に配慮した行動を進めるためには、環境に関心を持ってもらうことから取り組む必要があることから、DX化の視点も取り入れながら、より参加しやすく興味を引く事業を進めるなど、より効果的・効率的な展開を図っていきます。

指標による評価結果（基本目標5）

	成果指標（個）			目標指標（個）		
	○	△	×	○	△	×
対前年度比	1	-	-	4	1	-
対年度目標値比	1	-	-	4	1	-

対前年度比の評価

- ：前年度より良化している。 △：前年度からの悪化の程度が10%以内である。
- ×：前年度からの悪化の程度が10%を超えている。

対年度目標値比の評価

- ：年度目標値を達成している。 △：年度目標値との差が、年度目標値の50%以内である。
- ×：年度目標値との差が、年度目標値の50%を超えている。